白塔歌仙会第四五六回八月例会「秋祭り」の巻

オ　幟立ち村に活気の秋祭り　つぎを
　空は茜に群舞の蜻蛉　恆雄
三日（みか）の月山の峰より登りきて　悦子
　ヤッホーの声夜のしじまに　笈羅
避暑地とて減便のバスやっと来る　七緒
　雷ゴロゴロ急ぎ乗り込め　和子
ウ　ジャラジャラと会話彩るアクセサリー　果穂
　赤い口紅僕は苦手さ　悦
うなじから密かに覗く辰の爪　恆
　刺青（タトゥー）だらけのメジャーリーガー　七
甲子園開場１００年白熱戦　和
　スケボー用語ファイブフォーティー　果
下駄履きで怖々渡る凍る湖（うみ）　笈
　弦月研ぐ蓮骨突兀　恆
上野まで弁財天の御参りに　悦
　島に潜むは忍びの者か　笈
花見時有象無象が飲み明かす　和
　かんぴょう巻の海苔の光沢　果
ナオ　ブザー鳴る次は義経千本桜　七
　鼓膜の奥に兆す幻聴　恆
林間に走りゆく影瞬く間　笈
　水しぶきあげ何か飛び込む　和
ぞっとするセイレーンの歌海霧の中　果
　パラソル廻すファム・ファタール　悦
習いたし姐己のお百に色の術　七
　女装の男も毒婦になるとか　和
どっちを取るの噂咄とこのあたし　悦
　はった！はった！と勇まし胴元　笈
サイコロの象牙六面冷ややかに　果
　栗羊羹でマラルメを読む　七
ナウ　夕窓に榲桲（まるめろ）留まる陽は黄金　恆
　メダイユ掛けて続々帰国　果
出発だ楽しんでこようハリウッド　笈
　聖なる森に貌鳥住まう　悦
熊野古道峠に開く花緞子（どんす）　七
　春の畑ゆく文金島田　和

連衆：つぎを、恆雄、悦子、笈羅、七緒、和子、果穂。
令和六年八月三日 首、令和六年八月十七日 尾（文音）